

大学生が開放特許活用

つくばで会 商品アイデア提案



藤川雅海頭取（中央）と、最優秀賞の茨城キリスト教大、優秀賞の筑波学院大のメンバー＝つくば市竹園

地域の大学生が大手企業などの開放特許を活用した商品アイデアを提案する「知財活用アイデア県大会」（筑波銀行・筑波総研主催）が、つくば市竹園の同行つ

くば本部ビルで開かれた。最優秀賞は茨城キリスト教大、優秀賞は筑波学院大のチームがそれぞれ受賞。同行の藤川雅海頭取から表彰を受けた。

最優秀賞のチーム「まよねーず」は横堀夏姫さん（3年）らメンバー5人で構成。富士通の開放特許「広告関連技術」を活用した商品アイデア「JOYLEAD」（スマホで日本一親切な案内を）を提案した。カメラや無線通信タグなどを用いて対象者の特徴を抽出し最適な情報を表示する技術を、来日観光客などにも対応できるように考えた。横堀さんは「実現できたら、外国人観光客ももっと増えたい」と商品化への意欲を見せた。

優秀賞の「つくばKVAチーム」は岡本琢実さん（3年）が、富士通の開放特許「視線検出技術」を活用し、「目だけで操作 視線マウス」を提案した。同大会は学生によって創出された斬新なアイデアを地域中小企業などに提供することで、新規ビジネスの創生につなげることを目指している。

（久保浩）